

日本陸棚周辺の十脚甲殻類

大陸棚斜面未利用資源精密調査

DECAPOD CRUSTACEANS FROM CONTINENTAL SHELF
AND SLOPE AROUND JAPAN

The Intensive Research of Unexploited Fishery Resources
on Continental Slopes

1986

社団法人 日本水産資源保護協会

Japan Fisheries Resource Conservation Association

ワラエビ科 Chirostylidae

115 ツノコシオリエビ(新称) *Eumunida dofleini* Gordon, 1930



Ovigerous female (in preservative) from Kyushu-Palau Ridge, 680-770 m, cl 41.2 mm

ワラエビ科 Chirostylidae

116 ミナミツノコシオリエビ(新称) *Eumunida pacifica* Gordon, 1930



Female from Kyushu-Palau Ridge, 697-1320 m, cl 62.0 mm

115 ツノコシオリエビ(新称) *Eumunida dofleini* Gordon, 1930

形態 額角と甲の側棘を除くと甲の長さと同幅は等しい。甲の表面は微小な剛毛でおおわれる。頸溝は明瞭で、甲の前半部の横条は鱗状となり、後半部の横条は発達が悪い。肝域には斜めに走る3棘の列があり、このうち最前部の棘が顕著で、中間部の棘は欠けることがある。眼上棘は内外の2対あり、内外の棘はそれぞれ適度に離れていて近接しない。甲の側縁は後方へ広がり、5-6棘が並ぶ。第3顎脚の長節内縁に棘を欠き、外縁先端に1小棘がある。第3顎脚の着生する胸部の第3腹甲は先端が二又した鈍い突起となる。第4腹甲の側縁には棘がない。鉗脚は左右同形で、甲の約3倍の長さがあり、比較的細く円筒状をなし、雄では幾らか太い。掌節の腹面先端には短毛の密集するくぼみがない。長節には4個の棘列があり、腕節上へ続く。掌節は指節の1.2-1.5倍の長さがあり、棘が2列に並ぶ。両指の咬合縁は雌ではまっすぐに接しているが、雄では小さい間隙があり、いずれも微小な突起に混じって明らかに大きい突起が等間隔に並ぶ。第2-3脚は鉗脚の腕節先端にとどく。長節と腕節の背側内縁には棘が列生する。先端の2節は平たく、前節の下縁に7-10個の細長い可動棘が等間隔に配列する。雄は生殖肢をもたない。**体色** 甲は淡いピンク色で赤色の棘をもち、腹部はピンク色、付属肢は一樣な赤色である。**調査標本** 九州パラオ海嶺, 697-1320 m: 1 ovig. ♀ (cl 24.3 mm); 沖縄舟状海盆, 680-770 m: 1 ♂ (cl 48.4 mm), 2 ovig. ♀ (cl 36.4+, 41.2 mm)。**備考** ツノコシオリエビ属 *Eumunida* の特徴の一つは雄に交接器となる腹肢をもたないことである。種の分類には胸部の第3-4腹甲の棘の有無や、鉗脚の掌節下面末端近くにおける短毛の密集するくぼみの有無が役立つ。本種は甲の横すじが顕著でないので容易に他種と区別できる。**分布** 相模湾から伊豆諸島まで、および、今回新しく記録された九州パラオ海嶺と沖縄舟状海盆, 水深 425-1320 m。^{14,63)} (馬場敬次)

116 ミナミツノコシオリエビ(新称) *Eumunida pacifica* Gordon, 1930

形態 甲の背面の横条は明瞭で多少隆起しているが、胃域の横条は鱗片状を呈する。肝域には左右に対になった3棘が斜めに並んでいて、最前部の棘が最も大きい。胃域には棘がない。甲の側縁は中央で膨らみ、7棘をそなえる。額棘は甲の1/2の長さがある。外側の眼上棘は内側のそれに近接せず、先端はその中間をわずかに越える。触角柄は5節からなり、第2節の棘は第4節の中間にとどく。第3顎脚の長節の内縁に1棘があるが、小突起に退化することがある。また、外側先端に普通棘を欠くが、微小棘があることもある。胸部の第3腹甲の前縁に対になった鋭い突起があり、次の腹甲の側縁にも強棘が左右に1個ずつある。鉗脚は円筒状で比較的細く、甲の4倍の長さがある。長節には3個の棘列がある。腕節は短く、内側に2棘、腹側先端に1棘あるが、背側には棘を欠く。掌節は可動指の約1.3倍あり、その表面には粗毛がまばらに生える。腹側には内縁近くに5棘が列生するが、全く棘を欠くこともある。腹側末端における短毛のはえたホクロ状のくぼみの有無はこの種では一定しない。第2-3脚は長節の上縁に約11棘、腕節に5棘をもつ。前節の上縁は棘を欠き、下縁に細長い12-13個の可動棘が列生する。第4脚の長節はやや幅広く、短く、上縁の棘数が少ない。**体色** 全体に橙赤色。**調査標本** 九州パラオ海嶺, 520-1320 m: 2 ♂ (cl 40.0+, 44.4 mm), 1 ovig. ♀ (cl 49.4 mm), 1 ♀ (cl 62.0 mm)。**備考** 胸部の第4腹甲の両側に強棘があること、および、鉗脚の掌節下面に短毛の密集したホクロ状のくぼみを欠くことが本種の特徴である。しかし、今回調査した標本のうち3個体は鉗脚の掌節にホクロ状くぼみを持ち(1個体では未発達)、棘が全くない。他の一般的な形態からは別種とは到底考えることができず、本種に同定した。三宅¹³⁴⁾により九州パラオ海嶺より報告された *E. funambul* の標本は本種である。**分布** ロッチ島沖のサブ海, オビ島沖のセラム海, および九州パラオ海嶺, 水深 293-1320 m。^{63,134)} (馬場敬次)

ワラエビ科 Chirostylidae

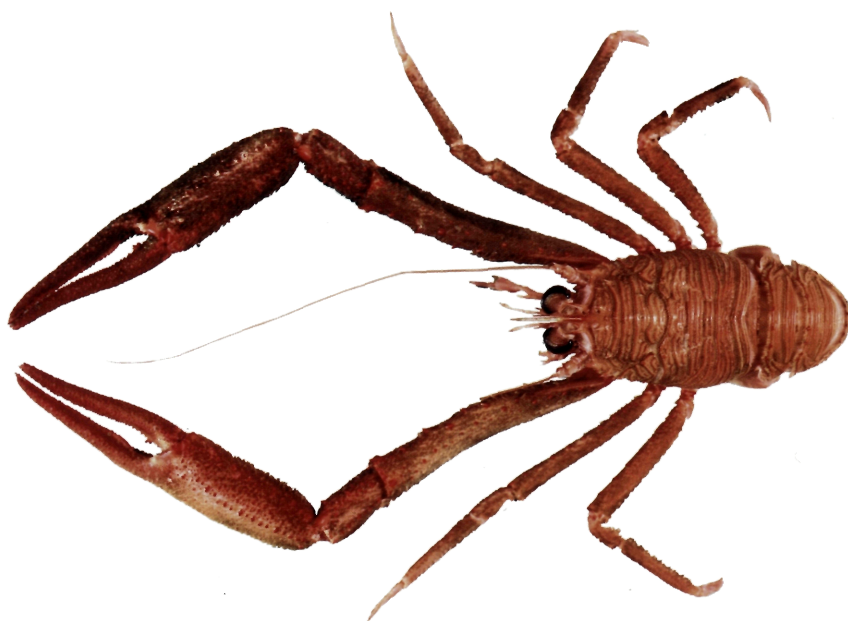
117 ツノワラエビ(新称) *Gastroptychus hendersoni* (Alcock and Anderson, 1899)



Ovigerous female (in preservative) from Kyushu-Palau Ridge, 910 m, cl 26.5 mm

コシオリエビ科 Galatheidae

118 オオコシオリエビ *Cervimunida princeps* Benedict, 1902



Male from Tosa Bay, 400 m, cl 62.7 mm

117 ツノワラエビ(新称) *Gastroptychus hendersoni* (Alcock and Anderson, 1899)

形態 甲は全面小棘におおわれているが微小棘は比較的少ない。このうち、やや大きめの棘が縦に列をなしていて、眼柄直後の1対は常に大きく明瞭である。額角は棘状で、先端が上向きになる。眼窩外角は形成されず、眼柄の後の額縁は額角の縁から甲の前側角へ連続して傾斜する。頸溝は明瞭で、心域は他から明らかに区画される。甲の後部側縁の下方には膜状のひだがある。すべての腹節は少なくとも側甲に小棘をもつ。尾節は前後2節に分かれ、後節の方が長い。眼の角膜部分は多少膨らむ。第2触角鱗は小さく、三角形の突起に退化する。胸部第3腹甲の前方腹面には2対の斜下方を向いた棘がある。第4腹甲の側面には左右に強大な棘が1個ずつあり、腹面にも左右3-4棘ずつが縦溝で隔てられて列をつくる。第3顎脚の座節は咬合縁に12-13個の小突起を有し、長節と腕節は外縁先端にそれぞれ1棘をもつ。鉗脚はほぼ円柱状で、甲の6倍の長さがあり、列生する棘におおわれている。両指は掌節の1/2以下の長さで、咬合縁に大きな間隙がある。第2-4脚は基部が円柱状をなし、先端に向かって平たくなり、表面は鉗脚と同様に棘におおわれる。前節は先端部が幾分広くなり、後縁先端部に細長い可動棘が密集する。指節は短く、後縁に並ぶ6-9個の細長い棘は節の基部に向かって小さくなる。**体色** インド南西沖の標本では全体に帯黄紅色で、角膜の色素は濃い。⁵⁾ **調査標本** 九州パラオ海嶺, 910 m: 1 ovig. ♀ (cl 26.5 mm)。**備考** 日本近海の浅海からはツノワラエビ属 *Gastroptychus* に近縁のワラエビ属 *Chirostylus* の2種が知られているが,¹³⁹⁾ 額角を欠くので区別は容易である。本属の記録は日本近海からはこれが初めてである。卵径は1.6 mmをはかる。**分布** インド南西海岸沖, アラビア南部沖, 九州パラオ海嶺, 水深787-1415 m。^{5,7,195)} (馬場敬次)

118 オオコシオリエビ *Cervimunida princeps* Benedict, 1902

形態 甲の表面には横しわが多く、その隆起も顕著である。前胃上棘は6個あり、原胃側棘と頸溝後棘が明瞭で、前鰓域には頸溝の近くに1棘がある。頸溝は明瞭である。甲の側縁には7棘がある。額角は側扁し、側面からみると、アーチ形をなし、背面に2歯と腹面先端近くに1強歯がある。眼上棘は外上方を向き、額角のほぼ中間にとどく。眼の角膜は膨らむ。第2-4腹節の背甲にはそれぞれ8棘をそなえる。第1触角の基部には外側縁に2棘と、末端に2棘があり、後者のうち内側のものが大きい。第2触角の基部第1節は内縁末端に微小な1棘をそなえ、第3節は内縁末端に1棘を有する。第3顎脚の長節は座節より短く、長毛が密生し、内縁に2強棘と、外縁に1-3棘を有する。座節の横断面は三角形で、咬合縁には約30個の突起が列生する。鉗脚は成熟した雄では甲の5倍の長さには達し、掌節は背腹に扁圧される。また、鉗脚は全面小突起と軟い剛毛に被われ、強大な棘はない。若い個体では鉗脚は比較的短く、棘は鋭いが、軟毛は少ない。第2-4脚は鱗片におおわれ、長節、腕節および前節基部の前縁に軟い羽状毛が生える。長節の両縁には棘列がある。**体色** 全体に橙赤色で、腹部の後半部は白色である。額角は基部と先端が深紅色で他は白色である。鉗脚の棘と突起は赤色を呈する。**調査標本** 土佐湾, 170-400 m: 4 ♂ (cl 33.1-49.0 mm), 4 ♀ (cl 17.3-37.4 mm)。**備考** アーチ形に湾曲した額角の上縁と下縁に歯を有することがオオコシオリエビ属 *Cervimunida* の特徴である。本属には2種が知られており、他の一種は南アメリカの *C. johni* である。その肉は冷凍や缶詰にされてアメリカのマーケットで“langostinos”として売られている。¹⁷⁹⁾ 土佐湾では捕獲量は少ないが、店頭に出ることがある。**分布** 金華山沖および山形県沖以南九州までの日本の両沿岸, 水深76-452 m。^{26,134,210)} (馬場敬次)

コシオリエビ科 Galatheidae

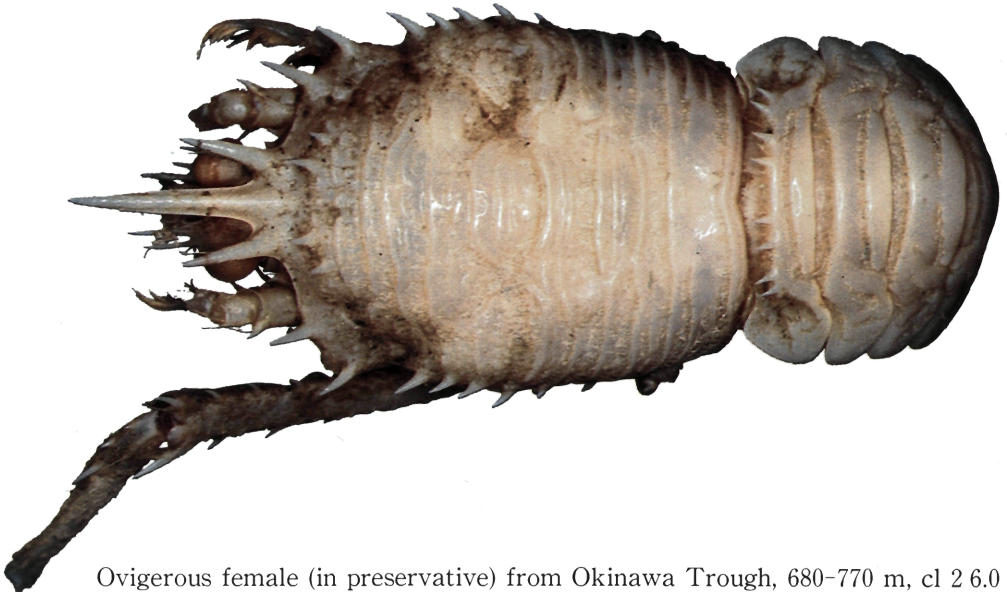
119 アカツノチュウコシオリエビ *Munida andamanica* Alcock, 1894



Ovigerous female from Tosa Bay, 400 m, cl 19.8 mm

コシオリエビ科 Galatheidae

120 フトツノチュウコシオリエビ(新称) *Munida crassa* Baba, 1982



Ovigerous female (in preservative) from Okinawa Trough, 680-770 m, cl 26.0 mm

119 アカツノチュウコシオリエビ *Munida andamanica* Alcock, 1894

形態 甲の背面には比較的しわが多い。6-12個の前胃上棘と左右1個ずつの原胃側棘が明瞭である。頸溝直後の前鰓域背面にある棘と頸溝後棘は欠けることがある。甲の側縁には7棘があり、うち5棘が頸溝の後方に位置する。額角は棘状で甲長の1/2を越え、上向きに曲がる。眼上棘は水平で外向きに突出し、額角の中間で終わる。第2腹節の背甲前方の横条上に8棘がある。眼は膨らみ、角膜部の基部に列生する”まつげ”は短い。第1触角の基部先端の2棘は長さが等しい。第3顎脚の長節内縁には2棘があり、末端の棘は短小か痕跡的である。鉗脚は太くて短く、羽毛状の毛におおわれるが、虹色の粗毛も長節内縁に多い。長節の内縁先端の棘は著しく大きい。可動指の外縁基部に棘を欠く。雄の第1-2腹肢は交接器になる。脚の全てに副肢を欠く。**体色** 甲は全体に赤色を帯びる。額角の基部は深紅色で、腹部後半は白色を呈する。鉗脚の指節は白色であるがその先端は赤い。第2-4脚は鉗脚に似るが、前節の先端も白色を呈し、指節の前縁は赤色に縁どられる。**調査標本** 九州パラオ海嶺, 520 m: 2 ♀ (cl 18.2, 21.2 mm); 沖縄舟状海盆, 水深不明: 3 ♂ (cl 18.7-27.7 mm), 2 ♀ (cl 25.9+, 32.7 mm); 土佐湾, 200-450 m: 3 ♂ (cl 21.0-28.0 mm), 5 ovig. ♀ (cl 19.8-27.3 mm), 6 ♀ (cl 16.9-27.9 mm)。**備考** 本種は生時に額角基部が深紅色を呈すること、および、鉗脚長節の内縁先端にきわめて強大な棘を有することにより他種と容易に区別できる。本種に酷似する別種が土佐湾及びフィリピンで捕獲されている(未発表)。その額角は側扁された短剣状で先端が赤色を帯びる。明らかに新種であり、本調査中にも土佐湾から標本が得られたが、米国アルバトロス探検(1907-10)報告に記載されつつあるので本報告では割愛した。**分布** アフリカ東岸, アラビア海, モルジブ, アンダマン海, スマトラ西部沖, ジャワ海, スラウェシ, モルッカ, フィリピン, および日本近海, 水深 141-1360 m。^{2,15,134,206)}

(馬場敬次)

120 フトツノチュウコシオリエビ(新称) *Munida crassa* Baba, 1982

形態 甲は額角を除くと明らかに幅より長さが大きい。背面の棘は前胃域に限られ、4棘と数個の微小突起が横に並ぶ。このうち眼上棘の直後の2棘は常に大きい。甲の両側縁はほぼ平行し、頸溝の前方に2棘と、その後方に5棘をそなえる。前側角の棘は最も大きく前方を向く。額角は太い棒状で水平にのび、長さは甲の1/2以下である。眼上棘は太くて短く、額角から適度に離れ、やや外方に向かって突出する。その先端は眼の先端におよぶが、額角の中間にはとどかない。第2腹節には8棘がある。眼柄は比較的小さく、角膜の膨らみも小さい。第1触角の基節側縁に2棘、末端に2棘あり、後者のうち内側の棘が小さい。第2触角は細長く、第1節の内縁先端の棘は細い。第2節の内縁には先端の棘を除くと棘がない。第3顎脚の長節には比較的剛毛が少なく、内縁の2棘のうち先端の棘が非常に小さい。胸部の第3腹甲は長さに対して幅広く、前縁がほぼ横にまっすぐである。この節に続く第4腹甲は三角形で前縁は中央の一部でのみ第3腹甲の後縁と接する。鉗脚は強大で、羽毛状の毛におおわれる。両指を除く各節の内外両縁と背面に鋭棘が列生するが、特に長節と腕節の内縁末端の棘は著しく大きい。指節の側縁基部に明瞭な1棘がある。第2-4脚は比較的細く、指節を除く各節の前縁に羽毛状の剛毛が列生する。長節の後縁先端の棘は強大で、腕節の中央をはるかに越える。指節は幅広く、先端のみがわずかに曲がり、後縁に9本の棘状剛毛をそなえる。**体色** 不明。**調査標本** 沖縄舟状海盆, 680-770 m: 1 ♂ (cl 17.3 mm), 3 ovig. ♀ (cl 17.0-26.0 mm)。**備考** 本種はアカツノチュウコシオリエビ *M. andamanica* によく似るが、眼が膨らまないこと、第1触角基節の末端の2棘のうち内側の棘が非常に小さいこと、および、第2触角第2節の内縁中間に小棘を欠くことによって明瞭に区別できる。**分布** 北部琉球列島西方および魚釣島周辺の沖縄舟状海盆, 水深 680-950 m。¹⁹⁾

(馬場敬次)

コシオリエビ科 Galatheidae

121 ヒゲナガチュウコシオリエビ *Munida incerta* Henderson, 1888



Male from Tosa Bay, 350 m, cl 26.5 mm

コシオリエビ科 Galatheidae

122 チュウコシオリエビ *Munida japonica* Stimpson, 1858



Male from Tosa Bay, 150 m, cl 15.8 mm

121 ヒゲナガチュウコシオリエビ *Munida incerta* Henderson, 1888

形態 甲の背面は平たく、横条が多く、ほとんどが中断されていて左右に完走することがない。甲の幅と長さは等しい。眼上棘の後方に1対の棘と、心域と鰓域との境界に左右3棘ずつが縦に並ぶ。甲の後縁に沿った横条上に棘を欠く。頸溝は深く、心域の横条は明瞭に隆起する。甲側縁はほぼ平行で、頸溝の前方に2棘、その後方に4棘ある。前側棘はやや大きく、他の棘は小さい。特に後方4棘のうちの最前部の棘は頸溝の延長上にあり、棘列よりやや下方に位置する。額角は細く、まっすぐにのびるが、先端はわずかに上方を向く。眼上棘は平行して前方へ突出し、額角の中間までのびる。第2-4腹節背甲の前方横条上にはそれぞれ4棘が等間隔に並ぶ。第4腹節にはさらに1棘が後方横条の中央に位置する。第1触角の基節は毛深く、末端の2棘のうち内側の棘が大きい。第2触角の第1節は内縁先端に長大な棘があり、額角の先端にとどく。第2節の内縁には末端の棘のほかに1小棘がある。第3顎脚も毛深く、長節の内縁中央と外縁末端に1本ずつの鋭い棘がある。座節の咬合縁の隆起は低く、突起列は退化的である。鉗脚は細長く、表面は鱗片におおわれていて、背側縁に羽状毛および虹色の粗毛が混じって生える。第2-4脚は背腹に平たい。長節の前縁に15棘、後縁に7棘が列生する。指節は前節の1/2以下の長さで、目立って細くはなく、適度にカーブしている。雄では第1腹節に腹肢を欠き、交接器は1対しかない。体色 からだは全体に黄赤色で、腹部の後半部は白色である。脚の鱗片は赤に縁どられ、背縁の棘も赤い。調査標本 沖縄舟状海盆, 325-440 m: 3 ♂ (cl 13.9-32.8 mm); 土佐湾, 350 m: 1 ♂ (cl 26.5 mm)。備考 本種は日本の大陸棚斜面にも産する *M. squamosa*^{85,206})に近似するが、心域に棘を欠くことおよび第2触角に長大な突起をもつことによって区別される。分布 アフリカ東岸、マレー群島および相模湾までの日本の本州太平洋沿岸、水深 17-638 m。^{85,134} (馬場敬次)

122 チュウコシオリエビ *Munida japonica* Stimpson, 1858

形態 甲背の横条は明瞭であるが、多くは左右完走せず途中で切れる。10-14個の前胃上棘と左右1個ずつの原胃側棘は明瞭である。頸溝のすぐ後の前鰓域上の棘と頸溝後棘は欠けることがある。眼窩縁を含む額縁はやや傾斜する。額角は棘状で水平に突出する。2本の眼上棘は平行し、長さは額角の1/2かそれ以下である。第2腹節の背甲には普通棘がないが、稀に数個の小突起がある。眼は膨らみ、“まつ毛”は長く角膜の背面をおおう。第1触角の末端の2棘は同大である。第2触角第1節の棘は第3節の中間までのびる。第2節の両縁末端はそれぞれ強棘となり、内縁には1小棘が必ずある。第3顎脚の長節内縁には2-3棘があり、このうち先端の棘は小さい。また、外縁末端にも明らかな棘がある。第3胸節の腹甲の後縁は次の腹甲と幅広く接している。鉗脚は太くて長く、ほぼ円柱状で、小棘と小突起および剛毛におおわれる。掌節は指節と長さが等しく、背腹と両側縁にそれぞれ棘列を有する。両指は雄では咬合縁に間隙をもち、雌にはない。第2-4脚も比較的太く、表面は鱗片におおわれ、時には小突起が見られる。前節の後縁には10-11本の細長い可動棘がある。指節は太く、先端近くが曲がり、後縁は低い鋸歯状になり、9本の太い剛毛をそなえる。雄には2対の交接器がある。体色 地色は淡橙色であるが、鱗片、棘および甲背の横条の赤色によって、全体が赤味を帯びる。調査標本 土佐湾, 150-190 m: 2 ♂ (cl 11.1-15.8 mm), 1 ovig. ♀ (cl 11.1 mm)。備考 本種は日本の大陸棚から陸棚斜面に生息するサガミチュウコシオリエビ *M. heteracantha* Ortmann^{154,206})に近縁であるが、第3顎脚の長節外縁先端に明瞭な棘をもち、額角が側扁されないのが容易に区別できる。分布 インド太平洋に広く分布する種で、紅海およびアフリカ東岸からフィリピンを経て相模湾、小笠原およびオーストラリア西岸より知られている。水深 30-900 m。^{17,134,138,182,184} (馬場敬次)

コシオリエビ科 Galatheidæ

123 ケアシチュウコシオリエビ(新称) *Munida pilosimanus* Baba, 1969



Ovigerous female (in preservative) from Kyushu-Palau Ridge, 520 m, cl 27.8 mm

コシオリエビ科 Galatheidæ

124 スジナシチュウコシオリエビ(新称) *Munida proxima* Henderson, 1885



Ovigerous female from off Amami-oshima, 400 m, cl 12.3 mm

123 ケアシチュウコシオリエビ(新称) *Munida pilosimanus* Baba, 1969

形態 甲背の横条は数が多く、適度に隆起していて、ほとんどが左右へ完走しない。表面の棘は前胃域に1対、原胃域の両側端に左右1個、心域と鰓域との境界前方で頸溝の直後に左右2-3個、および、甲の後縁沿いの横条に2個ある。心域は他と明らかに区別できる。甲側縁は中央で膨らみ、前半部に6棘をそなえる。このうちの2棘は頸溝の前方にあり、残りの4棘は頸溝の後方にある。前側棘は他の棘より明らかに大きく、まっすぐに前方へ突出する。額角は比較的長く棘状で水平にのびる。眼上棘はやや外方を向き、額角の1/2を越えることがある。腹部第2-4節の前横条上に4棘が等間隔に並ぶが、第4節では外側の2棘は消失して中央の2棘のみが残る。眼は膨らみ“まつ毛”は短い。第1触角の基節末端には2強棘があるが、内側の棘が大きい。第2触角の第1節の内縁末端にある棘は小さいが鋭い。第3顎脚は羽毛状剛毛に密におおわれ、長節の内縁中央に強大な棘を有する。鉗脚は細長く、表面は小さい鱗片におおわれていて、内縁に顕著な棘が列生する。長節の内縁には羽毛状剛毛が多い。掌節は指節より長く、剛毛が少なく、内縁の背腹に2棘列を有する。不動指の先端は二叉して、はさみが閉じると可動指の先端を受け止める。第2-4脚は細長く、平たく、鱗片におおわれ、前縁には羽状毛が密生する。指節は前節の約1/3の長さがあり、全体に幅広く、背面正中に弱い稜線がある。雄には交尾器が1対ある。**体色** 不明。**調査標本** 九州パラオ海嶺, 520 m: 18 ♂ (cl 17.1-30.1 mm), 30 ovig. ♀ (cl 6.3-31.0 mm), 2 ♀ (cl 29.0-30.0 mm); 沖縄舟状海盆, 295-385 m: 1 ovig. ♀ (cl 22.0 mm)。**備考** 本種は駿河湾産 *M. tenuipes* Miyake and Baba¹³⁷⁾に似るが、心域・鰓域の境界前方に2-3棘が列をなすこと、第3顎脚の長節外縁先端に棘を欠くこと、および、第2-4脚の前節が比較的短いことにより区別できる。**分布** 土佐湾, 九州パラオ海嶺および沖縄舟状海盆, 水深 250-520 m。¹¹⁾ (馬場敬次)

124 スジナシチュウコシオリエビ(新称) *Munida proxima* Henderson, 1885

形態 額角が極めて短く、甲の表面が小棘におおわれていて横条を欠く。甲の背面はやや膨らみ、長さと同幅が等しい。甲の背棘のうち、前胃域の1対、後胃域の1個および心域中央の1個は目立って大きい。頸溝は明瞭で、各域の境界も明らかである。適度に膨らんだ甲の側縁には虹色の剛毛があり、小棘が列生するが、前側棘を除いて顕著ではない。額角の基部は幅広い三角形で、中央先端部は棘状になり、やや上向きに突出し、眼の先端にとどく。額角の基部のやや後方はくぼみ、中央に隆起稜があつて、前方にのび、額棘の背面にとどく。眼上棘は額角基部の三角の先端にとどく。眼は大きく膨らみ平たく、“まつ毛”は角膜の背面をおおう。第2-4腹節の前横条に目立って大きい4棘がある。後横条にも2棘あるが、第2-3腹節に限られ、第4腹節にはない。第1触角の基節は細長く、末端外縁の棘は発達するが、内縁の棘は小さく退化するか全くない。第2触角の第1節には前方にのびる長大な棘がある。第2節の内縁先端の棘はよく発達し、第4節を越えるとともに、第1節の長棘の中間より前方へ突出する。第3顎脚の長節は内縁の中央よりむしろ先端近くに1強棘をもつ。鉗脚は細長く、ほぼ円柱状で、甲の約4倍の長さがある。表面は鱗片状で、各鱗片は長節と腕節上で小突起を生じる。指節を除く各節の内縁には強棘が列生する。第2-4脚は非常に細長く平たい。前節の長さは幅の11-13倍ある。第2脚は次の第3-4脚より短い。雄の交尾器は1対しかない。**体色** 全体に赤色であるが一様ではない。胃域は赤味が強いが前鰓域の色は幾分淡い。胃域と心域の棘は白色を呈する。脚には写真に見られるような赤色の環帯がある。**調査標本** 九州パラオ海嶺, 320 m: 1 ♂ (cl 17.7 mm); 奄美大島沖, 400 m: 1 ♂ (cl 14.9 mm), 1 ovig. ♀ (cl 12.3 mm), 1 ♀ (cl 12.1+ mm)。**分布** パプア北沖, 奄美大島沖, 九州パラオ海嶺および伊豆諸島沖, 水深 275-400 m。^{15,84,85,197)} (馬場敬次)

コシオリエビ科 Galatheidae

125 ザラザラチュウコシオリエビ *Munida scabra* Henderson, 1885



Male from Tosa Bay, 150 m, cl 9.9 mm

コシオリエビ科 Galatheidae

126 トゲトゲチュウコシオリエビ(新称) *Munida* sp.



Female (in preservative) from Kyushu-Palau Ridge, cl 21.6 mm

125 ザラザラチュウコシオリエビ *Munida scabra* Henderson, 1885

形態 前種と同じく甲の背面は横条を欠き、小棘におおわれる。1対の前胃上棘と後胃域中央の1-2棘は他より明らかに大きい。また、心域正中線と心域・鰓域境界にそれぞれ棘列がある。眼上棘は太くて短く、額角の1/2の長さがある。第4腹節の後横条の中央には1個の鋭棘がある。第1触角の基節の末端2棘のうち、内側の棘は小さい。第2触角の第1節に前方へ突出する長大な棘があり、第2節の内縁末端の棘は触角柄の末端を越えるが、第1節の長棘の中間にとどかない。第3顎脚には長節の内縁中央に1棘がある。鉗脚は円柱状で鱗状突起におおわれていて、内縁には羽毛状および虹色の剛毛をそなえ、長さは甲の約3倍ある。各節の内縁には棘が列生する。掌節には比較的剛毛が少ない。両指の咬合縁には間隙がなく、それぞれ5-6個の突起を有する。また、それぞれの背面には縦走する稜線がある。第2-4脚も細長く、鉗脚と同様に前縁に剛毛が密生する。指節は前節の1/2の長さで滑らかな後縁をもつ。雄の第1腹節に腹肢を欠く。**体色** 全体に淡い橙赤色で、腹部後半が白色を呈し、棘および鱗片の前縁は赤色である。脚の赤色の環帯は前種におけるほど鮮やかではない。**調査標本** 沖繩舟状海盆, 295-550 m: 2 ♂ (cl 17.8, 19.5 mm), 1 ovig. ♀ (cl 11.9 mm); 土佐湾, 150 m: 1 ♂ (cl 9.9 mm)。**備考** 本種は以下に列記する特徴によって、チュウコシオリエビ属 *Munida* の中でも特異なグループ *scabra* group に含められる。1) 額角が極端に短く、基部が幅広い。2) 甲に横条を欠く。3) 第2触角の第1節に前方へのびる長棘がある。4) 雄の交接器は1対。前種を含め、本グループには5種が知られている。¹³⁾ スジナシチュウコシオリエビ *M. proxima* とは甲の背面後方に3棘列があること、および、第4腹節の後横条中央に1棘があることによって容易に区別できる。**分布** カイ諸島, 北ボルネオ, フィリピン, 東シナ海, 九州から犬吠崎に至る本州太平洋沿岸および朝鮮海峡, 水深 70-1630 m。^{84,85,134,138)}

(馬場敬次)

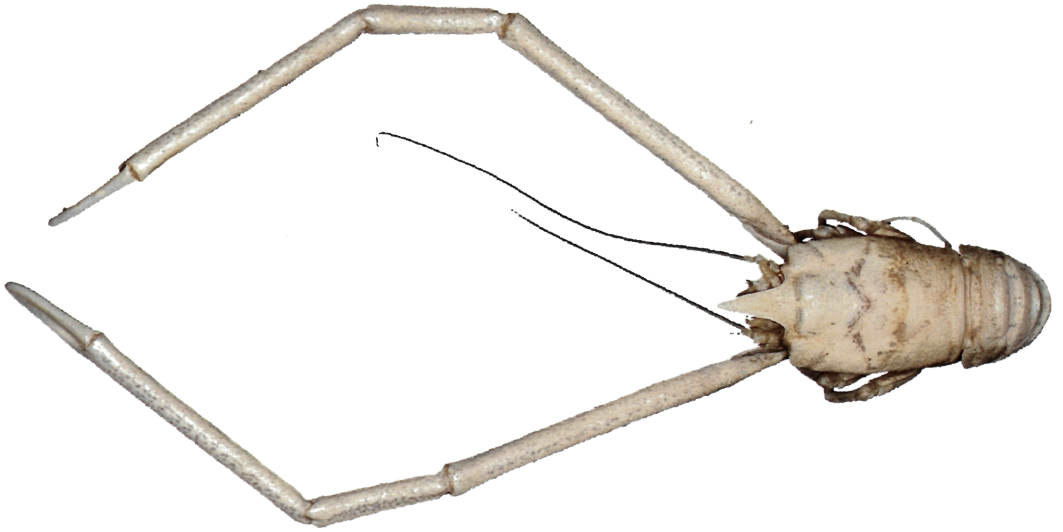
126 トゲトゲチュウコシオリエビ(新称) *Munida* sp.

形態 甲背の横条の数は比較的少ない。胃域はやや隆起し、眼上棘のすぐ後方に2対の棘が前後に並ぶが、前胃上の棘が大きい。頸溝は浅い。心域の隆起した横条上に2棘がある。心域と鰓域の境界の前部に2-4棘があり、頸溝のすぐ後の棘は顕著である。甲の後縁沿いの横条上には6-8棘が並ぶ。甲側縁は中央で膨らみ、前半に6棘がある。このうち2棘が頸溝の前部にあり、前側棘が最も大きい。額角は棘状でまっすぐにのび、わずかに上を向き、長さは甲の1/2に達しない。2本の眼上棘は太く、額角から適度に離れて、お互いに平行する。腹部第2-4節の前横条にはそれぞれ4棘があり、第4節では、さらに後横条にも中央棘をそなえる。眼は角膜が広く強く膨らみ、“まつ毛”は短い。第1触角の基部末端の2棘はともに発達して大きく等大である。第2触角の第1節末端は強く突出するが、第2節を越えない。第3節は棘を欠く。第3顎脚の長節の内縁中央の棘と座節内縁先端の棘は大きく鋭い。座節の咬合縁は低く隆起し、退化的な10個の小突起が列生する。胸部の腹甲は幅広く、第3胸節の腹甲は長さの5倍以上の幅をもつ。鉗脚は細長く円柱状で、甲の約3倍の長さがあり、背面は弱い鱗状突起におおわれ、内縁の剛毛は少ない。掌節の内縁に約6個の強棘が列生し、外縁にも先端に1棘をそなえる。長さは幅の8-9倍、指節の1.5倍ある。はさみの咬合縁に間隙がない。第2-4脚も細長く平たい。長節の内縁に棘列があり、腕節には先端の2棘のほか、前縁中央近くに1棘がある。前節は幅の12倍の長さがある。指節後縁の中央1/3には小さく低い歯列がある。**体色** 不明。**調査標本** 九州パラオ海嶺, 水深不明: 1 ♂ (cl 8.5 mm), 1 ♀ (cl 21.6 mm)。**備考** 本種は最近オーストラリア北西陸棚より採集された標本にもとづき、近く新種として公表される予定である。¹⁶⁾ **分布** オーストラリア北西陸棚および沖繩舟状海盆, 水深 502-550 m。¹⁶⁾

(馬場敬次)

コシオリエビ科 Galatheidae

127 オカダシンカイコシオリエビ *Munidopsis cylindrophthalma* (Alcock, 1894)



Male (in preservative) from Tosa Bay, 200-350 m, cl 18.6 mm

コシオリエビ科 Galatheidae

128 トゲナシシンカイコシオリエビ(新称) *Munidopsis debilis* (Henderson, 1885)



Male (in preservative) from Okinawa Trough, 815 m, cl 34.9 mm

127 オカダシシカイコシオリエビ *Munidopsis cylindrophthalma* (Alcock, 1894)

形態 甲の長さは幅より大きい。甲の背面および側縁には全く棘がない。甲の中央を横切る溝と心域の横溝は深い。頸溝は肝域と鰓域の間で明瞭である。胃域は前方が横に隆起する。甲の左右の側縁は平行するが、頸溝の末端部で切れ込む。前側角はまるみを帯びる。額角は三角形で比較的幅広くて長く、背面は平たいがくぼむこともある。腹部第2-4節の背甲には棘のない2横稜が明瞭である。尾節は12個の板に分かれ、左右1対の後板は細長い。雄では中央側板の側縁に剛毛が密生するが、雌にはない。眼柄は可動で、角膜部分はその大部分を占め、細長く、やや外側を向く。第1触角の基節には先端に2棘があるが、内縁末端には棘がない。第3顎脚の座節は長節と同長かやや長く、咬合縁に約16個の突起を有する。長節の内縁には2個の強棘があり、先端に1小棘が加わることもある。また、外縁先端は明らかな棘状となる。胸部腹甲は狭い。第3胸節の腹甲は後方へ狭まり、前縁は中央がわずかにくぼむ。鉗脚は細い円柱状で棘を欠き、甲の約3倍の長さがある。掌節は先端で幅広く、長さは指節の3倍には達しない。はさみは基部に間隙をつくり、先端の2/3が小突起をもって咬合する。第2-4脚は非常に短く棘を欠く。長節の前縁は竜骨突起をつくる。指節の後縁には約6個の太い棘があり、節の基部に向かって小さくなる。第1-5胸脚に副肢を欠く。**体色** 全体に淡赤色か淡橙色で、尾扇は白い。**調査標本** 土佐湾 200-350 m: 23 ♂ (cl 12.8-18.7 mm), 10 ovig. ♀ (cl 12.5-17.0 mm), 5 ♀ (cl 16.3-18.5 mm)。**備考** 本種は日本では *M. okadai* Yanagita²⁰⁵)として知られてきたが、“Investigator”号採集のアンダマン海の標本と比較した結果 *M. cylindrophthalma* のシノニムと判った。**分布** アラビア海, モルジブ, アンダマン海, スマトラ西岸沖, および紀伊半島沖と土佐湾, 水深 200-743 m.^{2,5,196,205} 未発表であるが、フィリピンにも産する。(馬場敬次)

128 トゲナシシカイコシオリエビ(新称) *Munidopsis debilis* (Henderson, 1885)

形態 甲は短い剛毛におおわれ、背面に棘がない。わずかに隆起する不完全な横条が甲の後半部に多い。胃域は明らかに隆起して膨らみ、心域の横条は隆起する。頸溝は明瞭ではないが両先端では明らかである。額縁は第2触角の外側では横にまっすぐで、内側の傾斜部分とは明らかに段差を生じる。甲の側縁はほぼ平行し、頸溝の走る部分で切れ込む。前側角はまるくて棘を欠く。額角は甲の1/2以下の長さで、幅の狭い三角形を呈し、背面はまるく膨らみ、先端は上向きに曲がる。腹部の背甲は滑らかで、よく発達した2横稜が第2-4腹節にある。尾節は12個の板に分かれ、1対の後板は前種における程長くない。眼は額角の1/3の長さで、角膜は長く、わずかに外向きに曲がる。眼と第2触角の間には額縁の下方に明らかな1棘がある。第1触角の基節は末端外側に2棘を有する。第2触角第1節の内縁末端は突出し、第2節と第3節の外縁先端は棘となる。第3顎脚の長節内縁に2棘あり、うち1棘は先端に位置し小さい。外縁先端にも棘がある。胸部腹甲は比較的幅広い。脚は柔らかい毛におおわれる。鉗脚は甲の2倍の長さがあり、腕節より先はやや平たい。長節の先端に4棘、腕脚には2棘がある。掌節は指節の1.5倍の長さがあり、両側縁はほぼ平行する。両指の咬合縁には基部にわずかな間隙があり、先端は交叉せず、数歯によってお互いに咬み合う。第2-4脚の長節は平たく、前節が幾らか竜骨状になる。指節の後縁には短い棘が列生する。第1-5脚に副肢を欠く。**体色** 不明。**調査標本** 沖縄舟状海盆, 815 m: 1 ♂ (cl 34.9 mm)。**備考** 本標本は現在知られている標本のうちで最大であり、付属肢を含め体表が剛毛でおおわれる点で今までの記載と異なる。オカダシシカイコシオリエビ *M. cylindrophthalma* とは額角、尾節および鉗脚の形態と第2-4脚のサイズによって容易に識別できる。**分布** アデン湾, ミンダナオ海および沖縄舟状海盆, 水深 686-1270 m.^{84,85,196} (馬場敬次)

コシオリエビ科 Galatheidae

129 フタホシシンカイコシオリエビ(新称) *Munidopsis latimana* Miyake and
Baba, 1966



Male holotype (in preservative), ZLKU 11041, from Tosa Bay, 250–350 m, cl 21.5 mm

コシオリエビ科 Galatheidae

130 ミットゲシンカイコシオリエビ(新称) *Munidopsis trifida* Henderson, 1885



Ovigerous female (in preservative) from Okinawa Trough, 680–770 m, cl 15.4 mm

129 フタホシシンカイコシオリエビ(新称) *Munidopsis latimana* Miyake and Baba, 1966

形態 付属肢を含め全体に細毛が密生する。甲背の膨らみは弱く、各域の境界は不明瞭で、棘がない。甲の両側縁はほぼ平行し、それぞれに5-9棘がある。このうちの第1棘は前側角にあり、突出は弱い。第2棘は最も大きく、頸溝の直後にある。これに続く棘は小さく、最後の棘は第3脚の付け根あたり、または、甲側縁の後から1/3あたりに位置する。額角は幅広い三角形で、甲の1/2以下の長さで、背面は平たく、先端は下方へ曲がる。眼窩外角は強く突出する。各腹節には棘のない隆起した2横稜がある。眼柄は細く、短い剛毛が角膜基部近くをとりまく。第1触角の基節の外縁末端に2小棘がある。第2触角柄には第2節の外縁先端の1棘のほか突起がない。第3顎脚の座節は長節より短く、咬合縁に16個の突起が並ぶ。長節の内縁には3強棘があるが、外縁先端の突起は棘とは認めがたい。鉗脚は太くて短く、腕節より先は背腹に扁圧される。長節と腕節にはそれぞれ末端に4棘がある。掌節の長さは幅の1.5倍で、側縁はやや膨らむ。両指は平たく、比較的幅が広い。咬合縁の基部は間隙をつくり、不動指に太い突起がある。不動指の外縁は鋸歯状である。第2-4脚は比較的短く幅広い。第2脚は前方へのばすと鉗脚の腕節先端にとどき、長節の前縁と後縁に棘が並ぶ。第1-5脚に副肢を欠く。体色 (フォルマリン液浸) 全体に淡橙黄色で甲背には2本の白色縦縞があり、腹部へ続く。また、甲の中央よりやや後方に1対の橙赤色の斑点がある。鉗脚の両指を除く各節先端は橙赤色が強い。第2-4脚は全体が橙赤色で、長節、腕節、指節の先端部は白く、前節の基部と先端付近に白い環帯がある。調査標本 土佐湾、250-350 m: 8 ♂ (cl 15.5-21.5 mm), 5 ovig. ♀ (cl 15.3-21.5 mm), 1 ♀ (cl 17.8 mm)。備考 北転船による標本はないので、九州大学嶺井久勝氏のご厚意により模式標本を登載した。分布 土佐湾、水深250-350 m。³⁶⁾ 未発表であるがフィリピンからも採集されている。(馬場敬次)

130 ミットゲ^{トウツメル}シンカイコシオリエビ(新称) *Munidopsis trifida* Henderson, 1885

形態 甲背にはわずかに隆起した横条が後半部両側にあるほか、中央と心域の横稜が明らかである。表面の剛毛の粗密の度合は一定しない。胃域は適度に膨らんで他域から区別され、1対の前胃上棘をもつ。甲側縁は幾分膨らみ、大きさのほぼ等しい4強棘が前半部に位置する。額縁は大きく傾斜し、触角上棘の有無は一定しない。額縁の下方には眼柄と第2触角との間に小棘がある。額角は基部が幅広く水平にのび、背面には隆起稜があり、腹面は平たい。基部の水平部分の先端は両側に鋭い棘をそなえる。腹節に棘を欠く。尾節は8個の板に分かれる。眼柄は可動で、眼棘を欠く。第1触角の基節の内縁先端は棘を欠く。第3顎脚の座節の両縁の末端はそれぞれ鋭く突出し、咬合縁には19個の明瞭な突起が並ぶ。長節内縁の2棘のうち基部の棘は特に大きく、背縁末端にも1棘をそなえる。調査標本では鉗脚を欠損する。東シナ海のものでは¹²⁾鉗脚は比較的長く、円柱状であるが、先の方は背腹に多少扁圧される。掌節は指節よりやや長く、内外両縁に棘の列があるが欠けることもある。第2-4脚は比較的細長い。第2脚は前方へのばすと鉗脚の腕節に辛うじてとどく程度である。長節と腕節の前縁には棘が並ぶ。第1-5脚は副肢を欠く。体色 不明。調査標本 沖縄舟状海盆、545-770 m: 2 ovig. ♀ (cl 15.4, 26.2 mm)。備考 インド西太平洋の個体群は、体をおおう剛毛の密度が非常に高いため、東太平洋産(マゼラン海峡、732 m)と区別して、ケブカシンカイコシオリエビ *M. trifida tomentosa* Benedict という亜種が提唱されてきた。^{12,26)} しかしながら、今回魚釣島付近から採集された成体の標本はマゼラン海峡産のタイプとはほぼ同様の剛毛密度を示し、亜種としての区別が困難であることが判った。分布 ラカダイブ海、アンダマン海、東シナ海、沖縄舟状海盆およびマゼラン海峡、水深280-1100 m。^{12,26,84,85)} 未発表であるが相模湾と駿河湾からも採集されている。(馬場敬次)